

郭公墓誌銘 幷序
殿中侍御史顏真卿撰并書
六月甲午朔十有五日戊申
史上柱國郭公薨于蜀郡之
師轉物千疋米粟千石官給
戊子朔十五日壬寅葬于偃

「顔真卿の書」②

郭虚己墓誌銘

唐・天宝八年（749年）

多宝塔碑



扶風夫子廟堂碑残石



郭虚己墓誌銘



王琳墓誌銘



「郭虚己墓誌銘」は、1997年に河南省偃師市首陽山鎮から出土した。現在は偃師の博物館に置かれている。以前に数度訪れて偃師博物館の多くの碑刻や画像石と共に、この墓誌銘を閲覧したことがある。見事な大型の墓誌銘であり、墓蓋も完全であり、墓蓋の篆書は、縦長の柳葉篆である。銘文は、顔真卿が文章を作り自ら書した。顔真卿四十一歳の天宝八年（749）の書とされる。前回紹介の「扶風夫子廟堂碑残石」や「多宝塔碑」とほぼ同時期の書風を示しているが、字形はやや縦長であり、伸びやかである。唐の重厚な写経体風の趣を示している。今回の顔真卿展には、更に若い時期の顔真卿三十四歳書とされる「王琳墓誌銘」が二種出品されていた。（黒い墨拓）は、開元二十九年（741）であり、一（藍色拓）は、天宝元年（742）である。共に同文（紀年のみ異なる）であり、書風もほぼ同じである。これまでも見てきた早年の作とされる「郭虚己墓誌銘」等と比較すると、書法面で大変に劣る。「郭虚己墓誌銘」の書と比較すると別人の作のようである。（上の比較図参照）中国では、前者（民間の所蔵）が原刻であり、後者（洛陽師範大学所蔵）が翻刻とする意見も見られる。顔真卿の一族は、学識ある家系であり、若い頃から書学に通じていたと考えられる。書法を学ばれている皆さんは、この「王琳墓誌銘」を「郭虚己墓誌銘」等と比較してどのように考えられますか。ご教示ください。

書道芸術院 平成の群像 (2019)



北 畑 芳 草

「臨書の大切さ」

「臨書をしっかりとやらんといかん」でした。
今改めて思い起こされます。

私が書を始めたのは、小学一年の時です。担任の先生が受け持ちが変わっても6年間特に指導して下さいました。少しのブランクはありましたが、その後社会人となってから、小島白洲先生に指導を受けました。先生が亡くなられてその後、恩地春洋先生にご指導を受ける様になりました。くしくも両先生は、同じ四国出身で幼なじみだったのでどちらの先生にも懇切丁寧に指導していただきました。恩地先生には10数年お世話になりました。両先生の指導の中で共通して、よくおっしゃっていたことばは、

書を指導していただきました。4,000字近い古典は、全臨するにはかなり大変でした。しかし私は書いていくうちに、ひとつの目標として「よし全臨してみよう」と平成30年元旦より目標を立てました。まず紙の大きさを二尺×八尺とそれを5枚に書く、一枚には800字位を入れました。下敷きは作らずぶつつけ本番で、ただ、まちがえないようとに随分注意しました。原寸大だったのでも、一日一枚のペースで仕上げました。5時間くらいかかりましたが、一枚ずつ集中して書きました。いつ終わるともしれない時間の中でも、ひたすらまちがえない様に書き

続けました。最後の5枚目に来た時には、やっと頂上へ到達した気持ちで、すがすがしい気分になりました。その後毎日展や、芸術院展への作品には、本当に役立ちました。

「書譜」には、文字の形、線質等が漢字作品、大字書作品に生かせる所がたくさんあります。今回全臨をやったことで、これだけのことをやれたのだから、どんなことへも挑戦できると自信がつきました。第71回書道芸術院展で、「春華賞候補」にノミネートされたのは、「書譜」による全臨の成果が少しでも出たのかとうれしく思いました。よい作品には根底に「臨書」があることをつくづく思いました。

これからも、恩地春洋先生の教室を引きついでおられる小林琴水先生はじめ、諸先生の皆さんとともに臨書を奥深く情熱をもつて取り組んでまいりたいと思っております。



第71回書道芸術院展 「昔在孟」

北畠芳草書

書のひろば

理事長
辻元大雲

第72回書道芸術院展審候以上搬入
特別賞選考 春華賞に大石仙岳氏

昨年12月の一般公募・無鑑査作品鑑評会別審査に続き、審査会員候補、審査会員作品の書類搬入が1月18日行われ、搬入状況は別表の通りとなつた。前回比若干減となり下落傾向に歯止めがかっていな。

第72回書道芸術院展搬入状況

部門	審査候補	前回展	審査役員	前回展
漢字部	248	261	182	185
かな部	47	49	53	53
現代詩文書部	248	254	171	172
篆刻・刻字部	22	23	20	23
前衛書部	146	154	101	103
合計	711	741	527	536
増減	(-30)		(-9)	

1月27日都美へ作品搬入、28日審査会員対象の春華賞選考が行われ、各賞が決定した。

(漢子) 朝倉希代子・小林青峰・菊池
昌春・高田春来・辻川松月・山岡扶佐・
一森琴映・中尾琴麗・衣田琴草・岩垣
若翠・小竹正高・大内燐軒・佐藤来扇・
三浦鄭街・清遠瑞・坂本大龍(かな)

同春華賞候補（A 赤シールで表示）

佐藤祥鳳・竹内惠雲・新田雄山・實名
桂峰・畠山秀子・藤原利苑・本間文苑
山内松吾・吉田景燁・篆刻馬場仙岳、
(前衛)相澤敦子・荒木孫功・石井和子・
北村早苗・工藤山房・佐藤葵心・地頭
汀仙・原島春汀・三浦朱鳳・村田珠風・
山田明子・遊佐紅雅

富原扇水・永見史童・根橋明香・樋井鷹春・本郷谷恵・本多江燕・松田藍華、(かな)小林純風・小林美由希・鍋島弘子・長谷川千峰、(現詩)阿部のぶ子・磯貝清耀・井上洋硯・上野千琇・岡本要翠・奥川麗流・小野寺京芳・工藤基山・齊賀清翠・酒井如雲・佐藤光耀・

同 白雪紅梅賞（漢子）青木藤漣・旭
等陽・佐伯哲哉・坂田華月・中島恵華、
（現詩）岩崎陽光・臼井眞理・柿沼彩香・
米谷桃光、（篆刻）佐藤花梢

第72回展春華賞 前衛 大石仙岳
同 大賞 漢字 種谷悠輝
同 準大賞 (かな)戸來益江、(現詩)
若見苑柚、(前衛)伊藤有津・高原梨秀・
花里智子

*秋季展選抜作家はこの他に財団役員
(顧問・理事監事・評議員・参事)名誉
会員、参与会員(選抜)、過去の春華
賞受賞者(木村笙園・佐久間幸扇・千
田春月)が出品予定者。

同 春華賞候補(B 青シールで表示)

(漢字)安藤華祥・青柳明華・一谷春
窓・那須野明花・藤原聖美・長峯力扇・
翠・佐々木青霞・佐藤紅茜・藤原紅雲・
小此木白洋・知野洛水・嵯峨翔葉・宮
崎芳玉

ロン毎日) 出品者17名

・かな部 佐藤希雲・京絹子・利村郁
子・治田芳江

篆刻刻字・前衛書(会場 アートサ
ルベニア企画「臺灣藝術院の書」かな・
大沼樵峰・赤羽蘭徑

奈・畠中成山・三木彩月
(アートサロン企画展に出品していた
だき、秋季展へは出品しない。)
第73回書道芸術院展大作出品者
(前)大石仙岳 (漢)朝倉希代子、(か)
九條純代

第72回展主要日程

- 2月5日陳列、記者会見
- 会期 2月6日～11日
- 作品解説会 (前回より3回開催)
- 2月6日(水) 14：00～15：30
一般公募、無鑑査上位入賞作品
- 2月9日(土) 14：00～15：30
「書道芸術院の書 漢字」出品
17名の作品を中心として
- 2月11日(月祝) 12：00～13：30
第1室院役員、大作、春華賞などを
中心として
- 2月10日(日)
- 10：00～ 学生展大賞受賞者、院役
員代表による席上揮毫会 (学生展会
場 2階)
- 13：00～ 学生展表彰式 (帝国)
- 15：00～ 一般展表彰式 (同)
- 17：30～ 祝賀会 (同)
- 多数のご参加をお願いしたい。

**「日本の書道」ユネスコ無形文化遺
産登録推進運動への協力を**
別記参照(P46)。 500円 (ピンバッジ贈
呈)ご協力を是非お願いしたい。

・ 2月10日(日)
10：00～ 学生展大賞受賞者、院役
員代表による席上揮毫会（学生展会
場^{2階}）
13：00～ 学生展表彰式（帝国）
15：30～ 一般展表彰式（同）
.. 30～ 祝賀会（同）
多数のご参加をお願いしたい。
「日本の書道」ユネスコ無形文化遺
産登録推進運動への協力を

* 一般公募、無鑑査上位入賞作品
* 2月9日(土) 14:00 ~ 15:30
「書道芸術院の書 漢字」出品
17名の作品を中心として
* 2月11日(月祝) 12:00 ~ 13:30
第1室院役員、大作、春華賞などを
中心として

第72回展主要日程

- 2月5日陳列、記者会見
- 会期 2月6日～11日
- 作品解説会（前回より3回開催）

(前)大三
九條純代

前衛書部 相内珠莉・一條紅簫・門脇信子・金井みどり・佐々木浩子・千葉紅雪・塚本真仙・名取雅子・野口加奈・畠中成山・三木彩月
(アートサロン企画展に出品していた
だき、秋季展へは出品しない。)
第73回書道芸術院展大作出品者

漢字(五)

飯田春香

余白美

作品を制作するに当たり大切な事は余白美です。白い紙の上に墨で書き進めていく中で、白と黒の対比に注意が必要になってきます。

日頃から指導頂いた恩地先生からは白、即ち余白の美しさをよく指摘されていました。初めは何のことかよく分かりませんでしたが、最近はなるほどと納得できます。ただ単に字を書くのではなく書いていい部分をどう生かすかということで、作品の美しさが違ってきます。線の太い、細いとか墨の潤渴、空間の包み具合によって引き締まったり、明るさが出たりします。



第55回毎日書道展出品「嘯」

飯田春香書

21世紀の書 —私の主張—



個展「小動物の世界」

嵯峨大拙書

前衛書(五)

嵯峨大拙

この作品は、平成26年8月4日～29日個展（小品展）に出品したものである。

「小動物の世界」として、パックを黒の濃淡で書き分け、書画作品表装スプレーで乾燥させたあと、金色のカラーを使つた。

面相筆で黒の余白をどのように生かすか思案して、三ヵ所に分け、神経、つまり脳と体の各部をつなぎ、刺激や興味を伝達する糸状の器官を感じ性、気を、鋭利に、過敏症になら成功と言えます。そのような作品を目指していきたいと思います。

現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2019)

和光ホール24人展 2019年1月3日(木)～9日(水) 銀座・和光本館6階

セントラル会場100人展 2019年1月3日(木)～9日(水) セントラルミュージアム銀座

主催：毎日新聞社・(一財)毎日書道会

〈和光ホール24人展〉

干支文字



辻元大雲

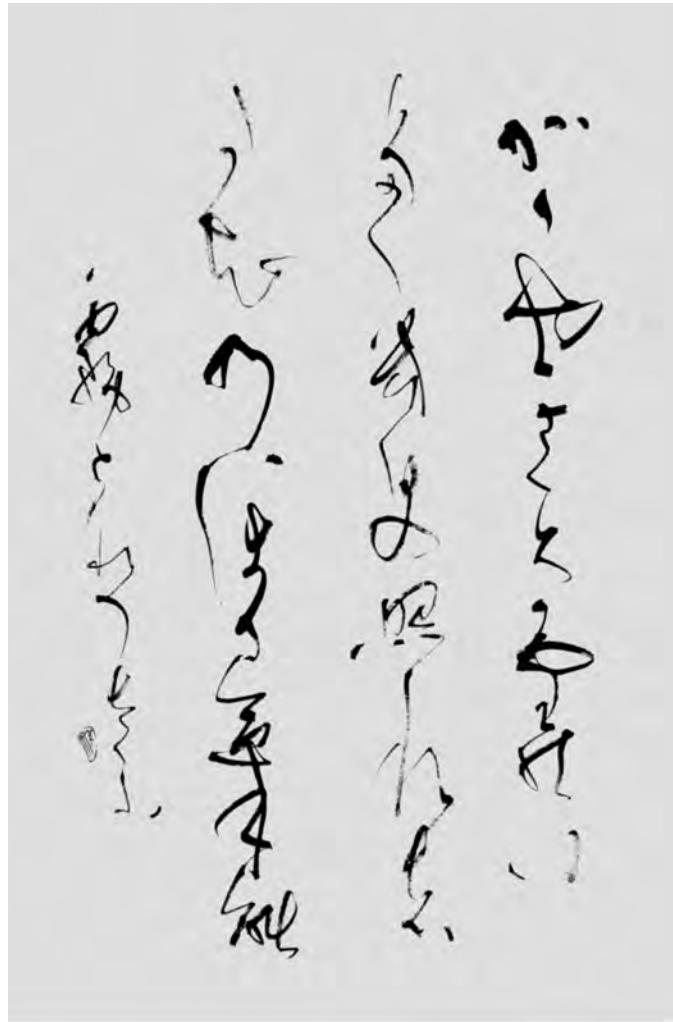


「水脈のこし」片山由美子句

74×165cm



「南疾風より」土屋文明 歌集『ゆづる葉の下』



下谷洋子



上 110×72cm

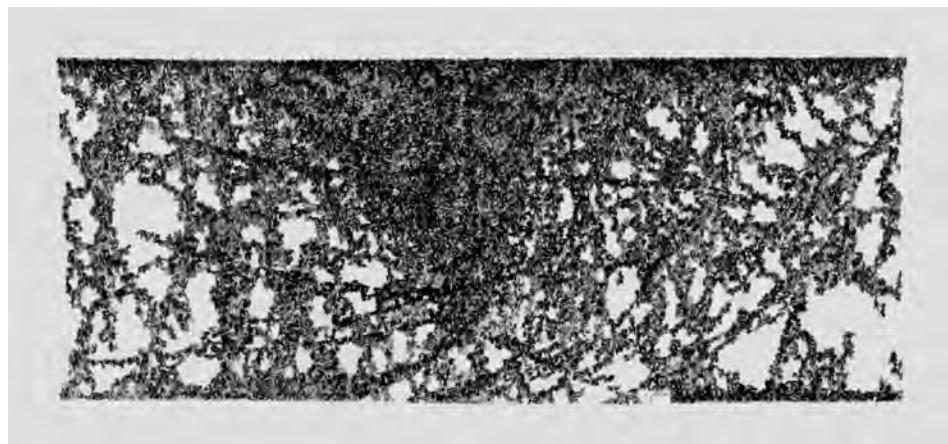
下 33×72cm

〈セントラル会場100人展〉

干支文字



千葉蒼玄



「ゲシュタルト崩壊」

70×150cm

干支文字



尾形澄神



「あたらしいあさ」自作

50×182cm

干支文字



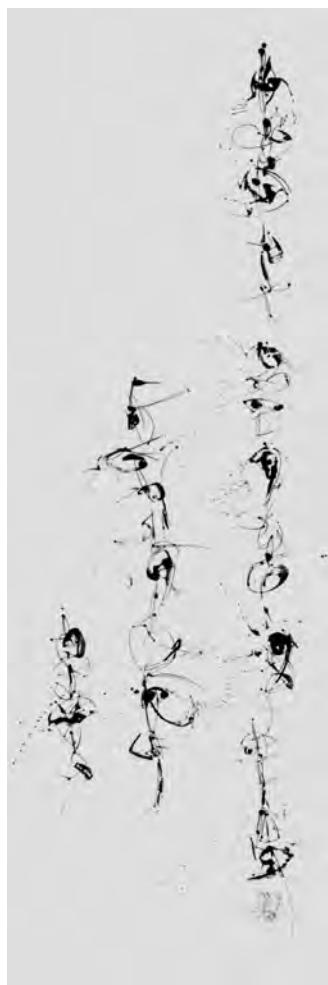
「虚ろな違和感」自作

78×113cm

干支文字



「相思夢」

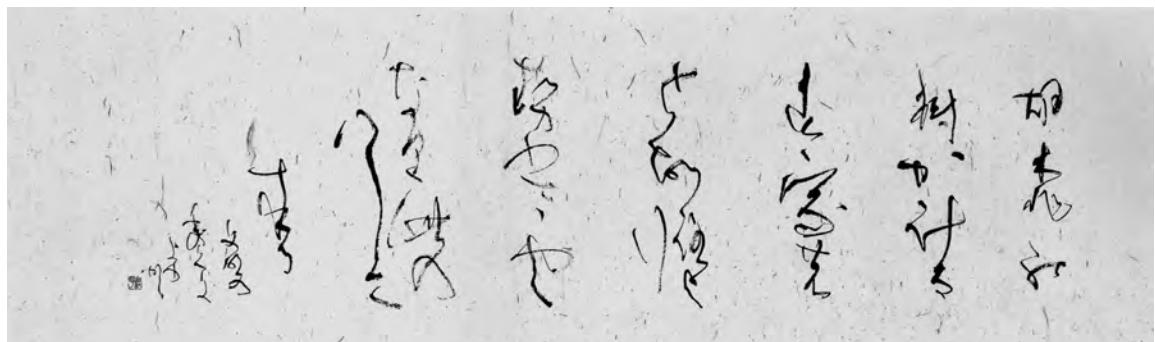


工藤永翠

183×60cm

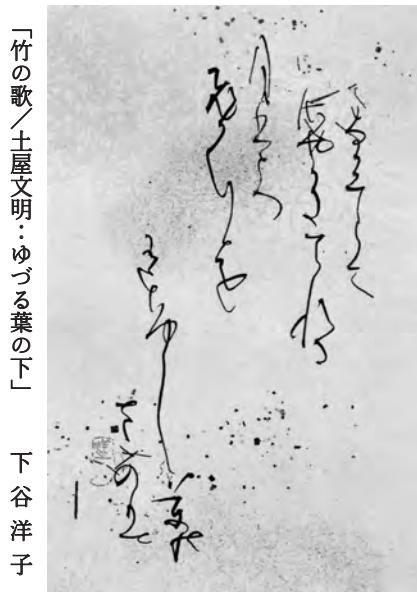
第63回
現代書道
二十人展

<会期・会場>
・東京展 平成31年1月2日(水)～1月7日(月) 日本橋高島屋
・大阪展 平成31年1月10日(木)～1月15日(火) 大阪高島屋
・名古屋展 平成31年2月23日(土)～3月3日(日) 松坂屋美術館
<主催>
朝日新聞社・松坂屋美術館(名古屋展)



下谷洋子「毛の国／土屋文明…ゆづる葉の下」

53×176cm



下谷洋子

21×16cm

草書千字文
(千金帖)
せんきんじじょう

唐 懷素
②

特別研究部臨書課題

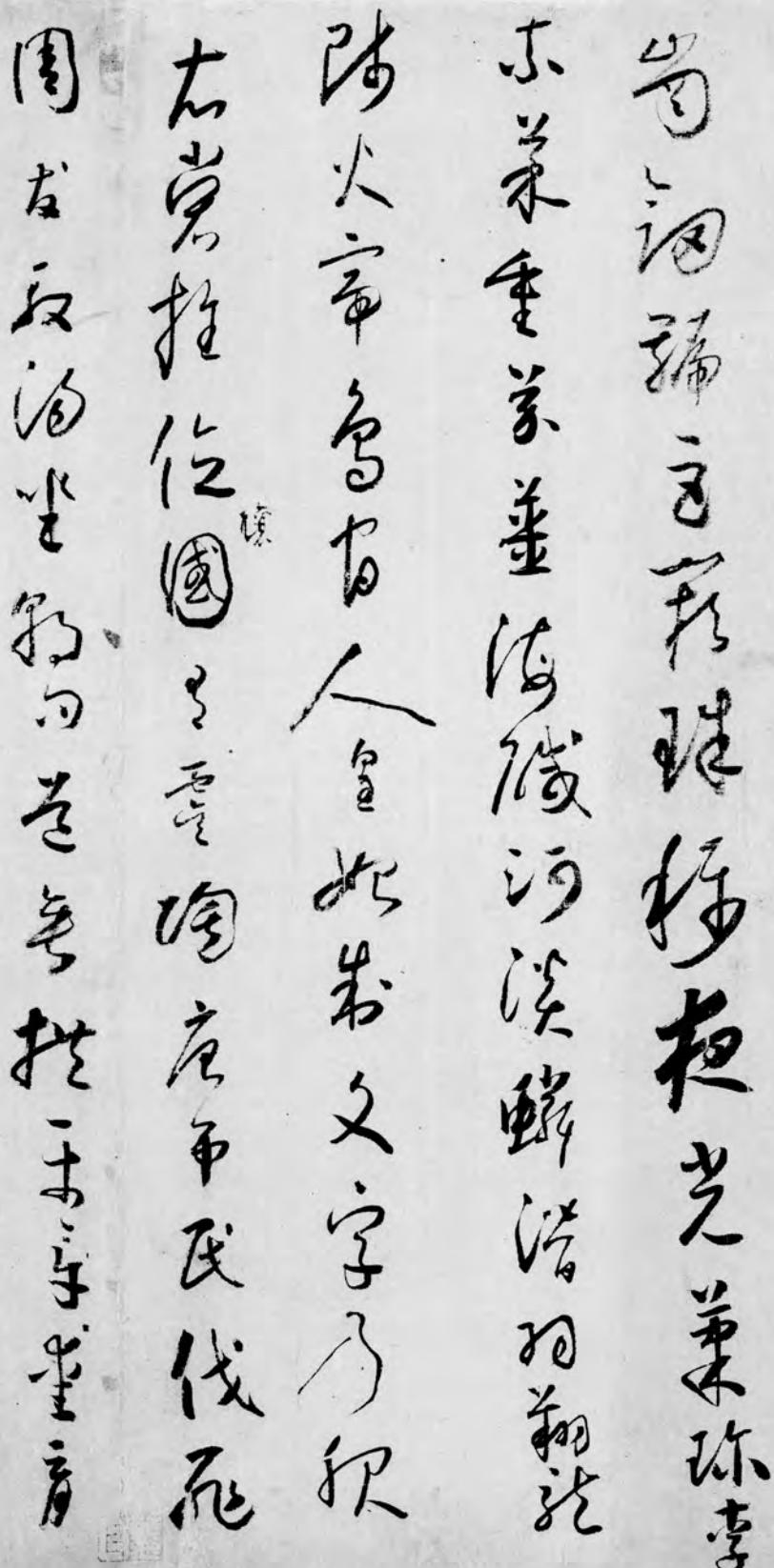
II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載
部分以外も可。

〈解説〉懷素の草書千字文は、千金帖・小草千字文ともいわれている。現存する懷素最晩年の作品である。懷素は狂草(極端にへずして連綿させた草書体)で有名であるが、この草書千字文は独草体で伝統的な草書であり、平淡古雅で自然、実に風趣に富んだ名品である。懷素の書として有名な自叙帖とは好対照で、自叙帖が連綿体

の代表作とすれば、これは独草体の代表作である。本文は80行、毎行11字から15字で、縦188×横279mmの絹本。台北・国立故宮博物院蔵であるが、現在、上野の東京国立博物館・平成館で開催されている「顏真卿—王羲之を超えた名筆」展(2/24まで)に、祭姪文稿とともに自叙帖・草書千字文が展示されている。

(編集部)



(掲載図版77%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

古筆鑑賞

(179)

〈よみ〉

かみなびのやまをすぎゆくあきなれば
たつたがはにぞぬさはたむくる
寛平のおほんときのきさいのみや
のうたあはせのうた
しらなみにあきのこのはのうかべるを乎
あまのながせるふねかとぞみる

高野切第二種
(伝紀貫之)

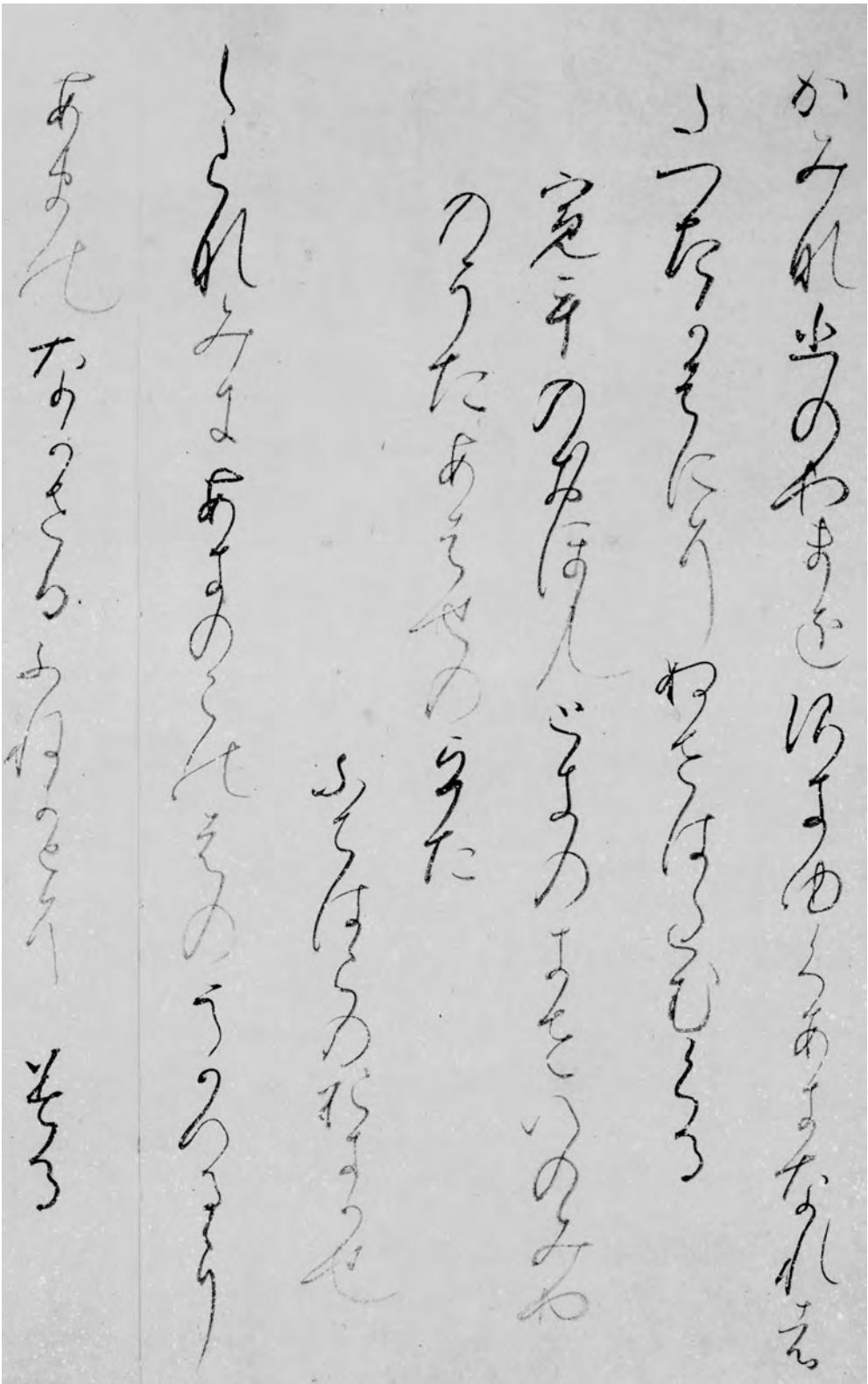
②

〈解説〉高野切の二種類の料紙は同一のものであり、麻をまぜて漉いた斐紙。その紙面全体に雲母砂子が散りばめられ、ほかに類のない珍しい紙である。高野切第一種は、文字の大小の変化には乏しい書風であるが、側筆を多用した力強く構築性のある文字が特徴である。運筆は緩やかで沈着である。行の中心が通るよう、文字そのものは傾けず連綿線を長く左下に伸ばし、それが全体のリズムとなり緊密度を醸し出している。この第一種は、古淡雄勁の趣がある。

※古筆は原寸(以上も可)で臨書しましよう。

(編集部)

※掲載図版は84%に縮小。



(個人蔵)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみ可)

かな研究部
臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付也可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全篇も可)

特別研究部
臨書課題

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

辻 元 大 雲

竹開霜後翠
(竹は霜後に開いて翠に)
(虞世南)



竹開霜後翠 よみ (竹は霜後に開いて翠に)

書体=自由

今回と次回は五字句表現で、対句となっています。次回「梅動雪前香」で、竹は霜後に開いて翠に、梅は雪前に動いて香しの意です。作者は唐の虞世南です。今回は柔らかな表情の草書表現です。

草書表現は書作品とする時に、字形の変化を取り入れやすく、楽しい作品作りができます。ただし、少しの変化が誤字となりやすく、気を付けなければなりません。字典などでもよく調べても、あまり特典などでは誤りとなる恐れもあります。字典に出ているからと言つて、すべて信用できない場合もありますので気を付けましょう。

「人偏」「行人偏」「さんすい」いずれも今回の「後」の偏と同じ形にもなります。偏と旁の組み合わせで誤字にならぬようにしましょう。

廣瀬舟雲

妍因俗易
（妍因俗易）

（書譜）



書体＝楷書

唐時代の草書作品として、また書論として有名な「書譜」の中の語を、今回も褚遂良「雁塔聖教序」をもとにして倣書してみました。「易」の異体字「易」は、4画目の横画が省略されます。妍には、「うつくしい・なまめかしい・わざ・たくみ・かしこい」の意味があり、この妍は、妍治つまり「美しくてなまめかしい・美人・華美」の意です。「妍治は時代の風潮によって移り変わるものである」と訳せます。美しくてなまめかしいものは常に移ろうということを言っています。「書譜」には現代にも生きる言葉がたくさん詰まっています。

習い方解説 (二)

石井明子

あしばやにくる春ならん雲竜の
やなぎいからと
柳一度にふくれきにけり

冬が去り、春が足ばやにやつて
くるのだろう。雲竜の柳の芽が
一度にふくらんできたことだ、
の意。

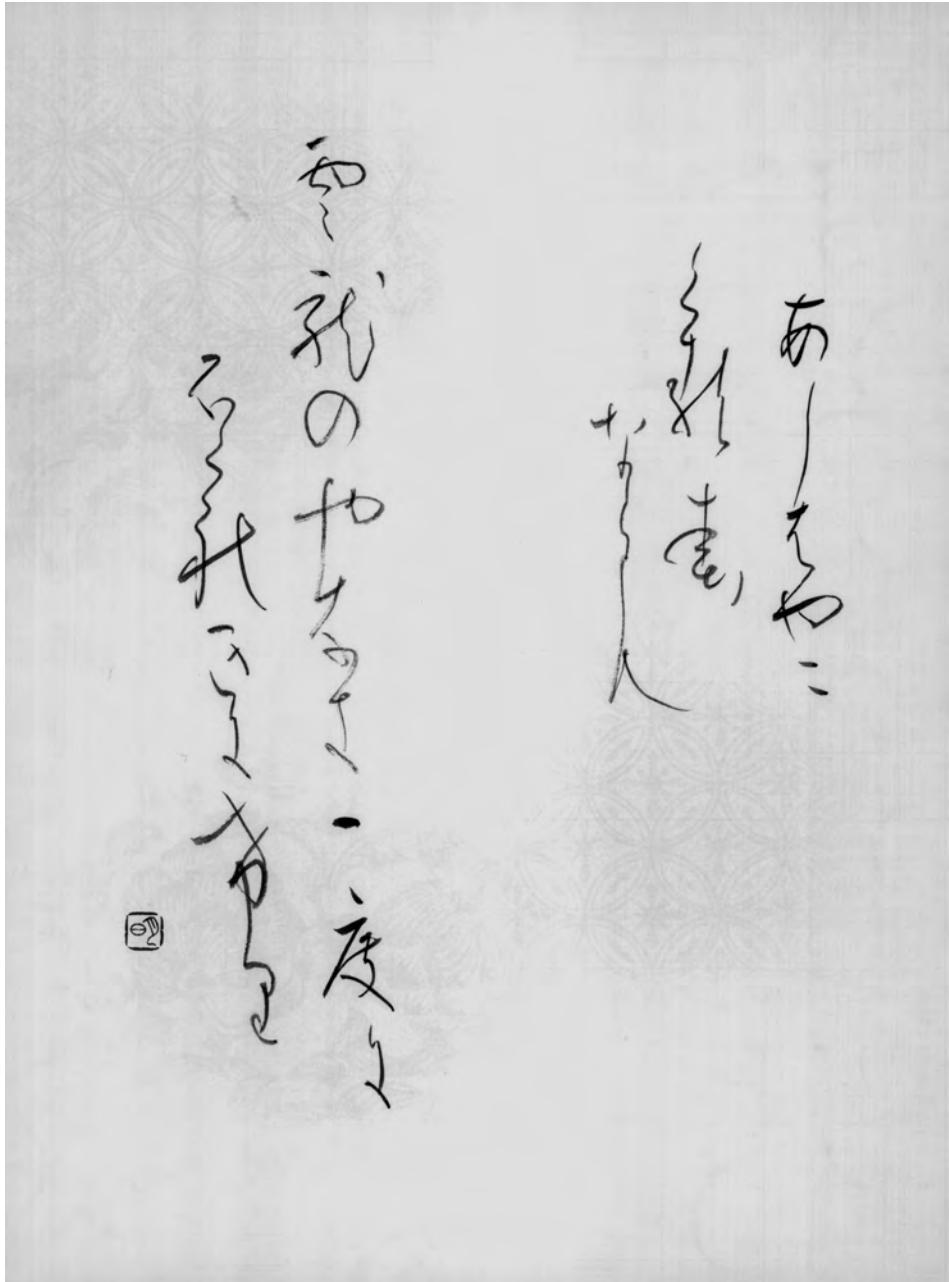
書きすぎない作品を創りたいと
常に願っていますが、物足りない
表現も困りもの。バランスの良い
ところを探るために、あらためて
余白について考えて、日常の中の
「間」という概念に行きつきまし
た。時間にも空間にもあります。
この紙面でいえば書き出しから終
わりまでの時間と字間、行間を含
む書かれてない部分の空きがあり
ます。その両方の間のよいのが多

そこを求めて毎回、悪戦苦闘するのですが、今のところ私には沢山書くことによつてしか解決には近づけないものです。

よみ方 あしば(者)や(也)に(一)く(久)る(類)春ならん(无)雲竜の

あしは(者)や(也)に()く(久)る(類)春ならん(无雲草の
柳(や奈支)一度に(尔)ふ(不)く(久)れ(礼)きに(尔)け(希)り(里)

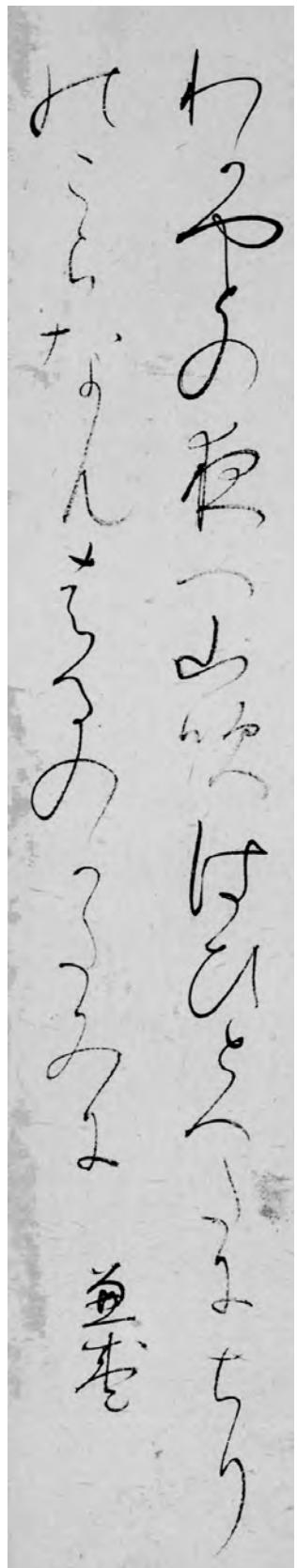
創作



かな規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大130%)



よみ方 わが(可)やどのや(夜)へ山吹はひとへだ(多)に(尔)ちり
の(能)こらなんは(者)るのか(可)た(多)みに(尔) 兼盛

兼盛

習い方解説 (二)

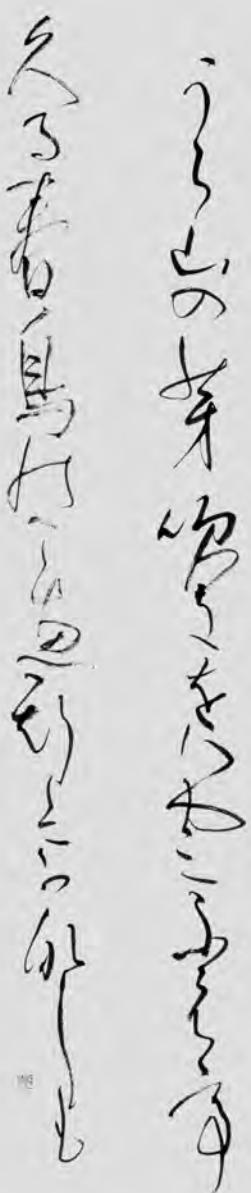
松 村 くに子

つか山の芽吹きをはやみ植えてくる
春鳥のこゑ繁にかなしも

(中村憲吉)

かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

松村くに子選書



よみ方

うら山の芽吹き(支)をは(八)やみ(一)殖(ふ)えて(寧)く(久)る

春鳥の(能)こゑ(患)繁斯(フ)に(一)か(可)な(那)しも

創作

半切に2行書きは、流れも出しやすいですが、ダラダラとした作品にもなりがちです。
運筆の変化が大切です。筆を紙に押し込むようについたり、速度をつけながら軽くぬくように動かしたりします。それらをくり返し練習してみてください。字の大細も出来ますし、自然と墨の変化も生まれてくるでしょう。

*タテ形式に限る

小林琴水



書体=自由

今月も、単体で書きましたが、文字はつながる様に、流れるように書きましょう。縦画の傾きに注意しましょう。筆の弾力を使うことが大切です。

筆をこすりつけたりしないこと！

*タテ形式に限る

習い方解説 (五)

千葉蒼玄

「部屋いっぱいの和やかな空氣」

漢字条幅規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

千葉蒼玄選書



書体=自由

この語のように、一つの堂に和やかな雰囲気で集いたいものである。今回は「書譜」を基に制作してみました。草書はどうしても字形が自分本位に崩してしまいがちですが、王羲之の「十七帖」と並んで「書譜」は基本字形をしっかりと受け継いでいるとされています。草書は回転運動と筆の立ち上がりが重要です。終筆で筆を上げることに注意して書いてみました。



和氣滿堂
(和氣堂に満みつる)

見越雪枝

日は入り日入りはてゆる
山の端に光なほとよりて
赤う見ゆるに薄黄はみたる
雲のたなびきわたりたると
あはれなり

今回は「行間の取り方」について、お話し

します。
書くにあたって、行の中心によって行間

を捉える場合と、文字の幅によって行間を
捉える場合があります。行間の取り方で読み

み易さが左右される事が多いと思います。

また、字形を整えて書く為には、文字の
中心を整える事は必須条件であります。そ
の上で行の中心を見定めて、文字の中心を
捉えれば行の中心は揃い易くなります。従っ
て行間も余白が生じ、読みやすく調和のと
れた作品になります。

今回は、枕草子より二五一段を課題とし
ました。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

枕草子 雪枝書

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No.692

ペン字部 師範 浅野 弘美
紙面構成が良く出来ていて、筆記用具が効果的に使われ自然な行の流れが表現されている。

◎ペン字部總評 行の流れを出そうとするあまり、やや雑な感の作が見受けられた。流れに留意しつつ丁寧に。誤字散見す。(豪峰評)

初日のひかへ一してて
四方に輝く今朝のそら
君がみかけに比えつて
仰ぎ見るこそ尊とけれ

千家尊福(一月一日) 私美書

かな条幅部 師範 高橋 由利
墨色、字形、運筆の速度等、あらゆる意味で最大級の賛辞として穏やかな作品。そして抜群の品格。



姑蘇城外寒山寺夜半鐘聲到客船 晴洞書

前衛書部 特選 高野 水仙

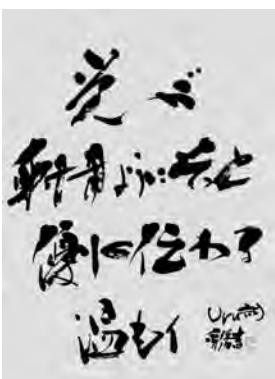
墨色美しく意表をついた構成。
草花の今開かんとするエネルギーを感じる。より線に深みが欲しい。

◎前衛書部總評 寒い為か出品数も少なくこじんまりした作品多い。大胆で開放的な作期待。(京子評)

現代詩文書部 特選 柿沼 彩香

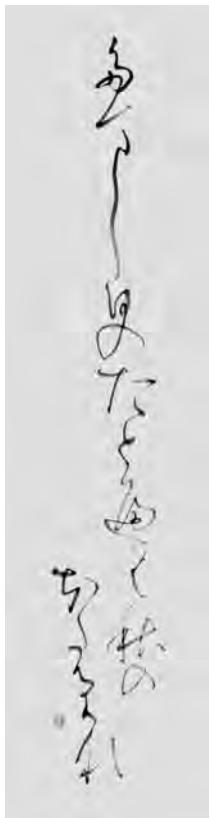
自在な筆の開閉により、多様な表情を見せる文字群、落款も見事で清々しい作品となつた。

◎現代詩文書部總評 工夫作多いが、文字造型や線質に一考を要する作も目立った。(岳峰評)

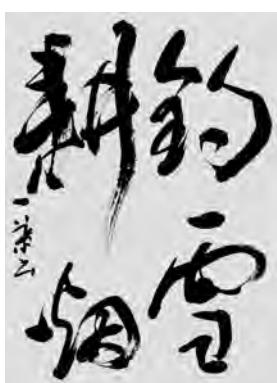


漢字条幅部 師範 石川 晴洞
やや細目の鋭い線質で明快な木簡風で表現した作。明るさとりズム感ある運筆の冴えが魅力。

◎漢字条幅部總評 上級二行書きは無難な安定作が多かった。下級一行書は簡略な文字造型が要。いずれも更に研究努力を。(大雲評)



◎かな条幅部 師範 高橋 由利
誤字多く残念。又、字の大小の組み合わせに理解を欠く作多く、バランスの再考を求めます。(明子評)



漢字部 師範 田中 一葉
参考手本に依りつつ自身のリズムで書いている。「烟」を小さくまとめた紙面構成への配慮が見事。

◎漢字部總評 参考手本に忠実に書けて陶酔している作もよく、自己の世界を打ち出そうとしている作もよく書を楽しもう。(翠風評)

かな部 師範 木暮 純子
疎密をつけた散らしが明るい表情を醸し、何よりも後半の伸びやかな呼吸が生きたりズムを生む。今回の変体がな盤は同じ盤でも複雑形、要注意!(洋子評)

◎かな部總評 俳句はやゝ大きめが紙面に適うが、過ぎるのは品を欠く。今回の変体がな盤は同じ盤でも複雑形、要注意!(洋子評)

今月の

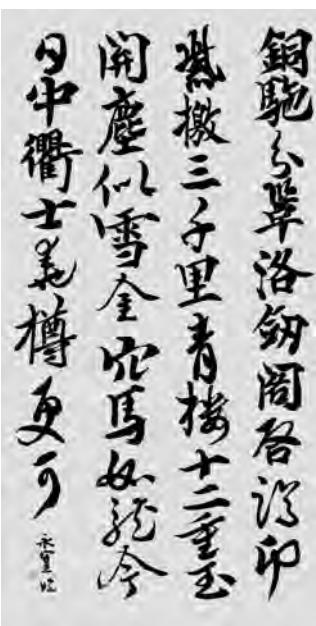
特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 半田藤扇 大辻多希子 山口仙草

臨書 (たかむら)

浜野永篁

「李嶠雜詠残巻」



浜野永篁臨

135×68cm

◆三筆の一人、特徴のある筆法を巧みに表現す。骨力ある線条と悠々とした書きぶりに心を打つ作品。

(藤扇評)

◆李嶠雜詠の特徴をよく捉え、切れ味のある書線と力量を感じさせる明るい作品に仕上がった。(仙草評)



高原梨秀書

180×60cm

◆のびやかに広がりある表現。二本連筆かと思うが、やや割れた線のくり返しが煩瑣に感じる。破筆を交え、減り張りの利いた明るい作。

(多希子評)

◆かなと漢字の布置よく、極端な変化を避けて書き上げている。快さがあり、よくまとまっている。1行目やや右に寄りすぎか。

(仙草評)

前衛書 (白珠) 高原梨秀 「灯」

現代詩文書 (大雲) 奥村美楓 「茶の句」



奥村美楓書

144×68cm

◆若さを感じる作。おだやかな筆法で心地よく書きあげた、上部の広がりに対して下部の布置を一考す。

(藤扇評)

◆紙面を貫く直線美、強靭な渴筆で充実した作となった。落款の位置大きさに一考を。

(仙草評)

◆紙面の中心を一気に貫通し、左右に飛沫を発する。筆を置いた時の筆者の心を感じる。達成感お見事。

(藤扇評)

◆白と黒とのコントラストが鮮烈で、爽快な印象を与える作。中央部の渴筆やや浮き気味か。期待大。

(大雲評)

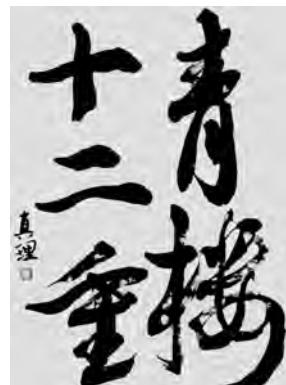
◆筆を静かに捻転しつつ、下へと進む線は大きく左右に揺れながら、明るい。線の妙味が楽しい。

(多希子評)

漢字研究部
(李嶠雜詠殘卷)

選評 名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



白井真理

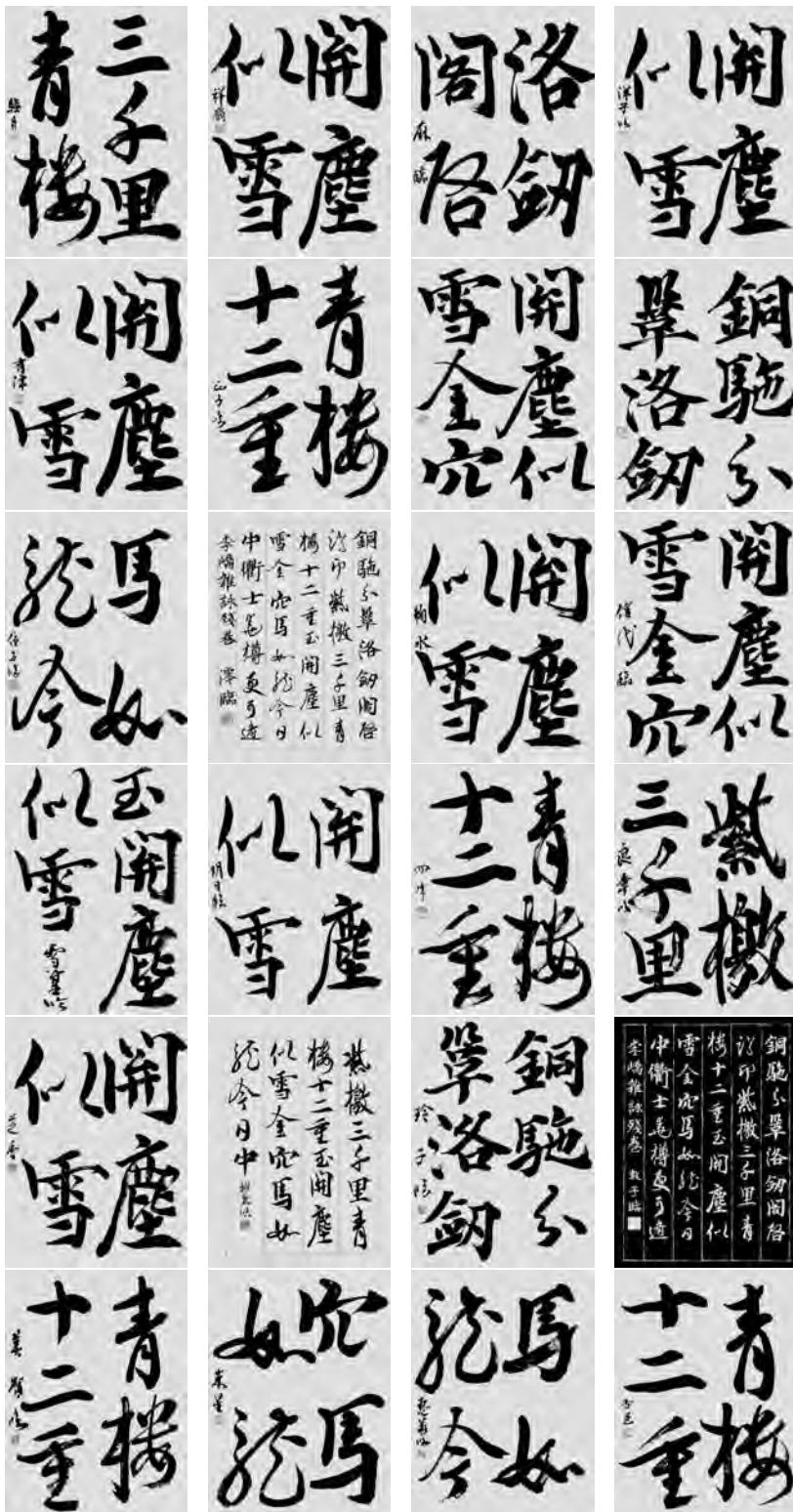
漢字研究部 特選 曰井真理

◎漢字研究部總評

原帖には筆脈の不明な個所がいくつもあり

字は一般的な行書・草書の崩し方を字典で調べます。ただ訳文がついていますから、不明な点は一般的な崩し方を選択して書くべきだと思います。これも臨書学習の重要なポイントです。ただ形が似ていればよいという学習では創作するときの力には結びつかないのです。

「鞏」の「エ」「檄」「樽」の木ヘン、「劍」・「馬」・「如」・「堯」・「更」・「逢」の筆順等に不正解な書き方がかなりありました。



美芝雪優有睦
智代香簷子津月

朱雅明 正祥
日濤
星泉夏 子扇

惠玲四絢美麻
華子峰水紬美

杏敦良信美洋
邑子章代梢子

選評 勝山初美

今月のホープ作品



清寿功
耀美子

紅雅佑
霞子子

雅悦香
泉子舟

佳绚和
子水子

飯高幹生

◎かな研究部總評
かたねた切り込むような鋭い線、良く利いた筆先に
力を込めて小気味よく流れる運筆は、爽快で美しい。
誤字も少なく、良く原帖観察されている作品が多
かった。山家集のさわやかな線を引くには、用紙、
筆にも注意し、先の利く面相筆などが良いでしょう。

かな研究部成績表

	かな研究部	特選	飯高幹生
正大松も 玉紅 華阪村く 松瑠 秀	高正長た松蒼玄蓮大石颯蕙大菊紅玉蘭京毫氷紅卯宗清う 真華月か村陽穹紅雲習葵書雲月風松鼎橋雲鑿瑤月苑月る		
石天阿青青青藍 川羽久木木木澤 知多澤 津惠隆藤松葵白 子華達月鄉珠	山加平浜青込千本堀松後閑鑿斎田橋林吉高永須高茂境飯 岸瀬山野木山葉田切丸藤口貝藤畠木 田橋井田橋木野高 眞明さ 奈日だ永王美陽美幸愛良芳清 美紅雅佑雅悦香佳绚和幹 美夏子董枝艸子雪雲石泉枝纏功子霞子子泉子舟子水子	特選	
菊月佳	ふ硯声長椿紅上玉上青上大耕玉 祥高た大蕙や高奥 大附大正白澄 A 蘭有 み水香月翠瑠泉松泉蓮春阪雲松 紫崎か拙書ま崎田 雲中雲華鶯春 I 鼎秋		
新井作 (50書)	吉宮宮増平原早長根沼中中土田鈴杉神猿佐坂齋小小黒草金片岡江宇伊市石 田澤内田山島部谷岸田村西井中木田宮渡藤本藤峰林柳刈城山田口井藤川川 富か 蕙子美草成佳つ春 千正奎ヶ恵弘耶睦陸玉簾陽里つ加純竹眞智恵麻楠壽子子洋 子秋子子子丁朗千子心子枝衣心子枝右子美え子風葉華子風美悠麗子子		
も生高 く大形陵 入	無や白松黎高澄上 A 前 一樹水大生山上生旭上毫 正誠澄明八硯大澄潮蒼大高大華樹黎も渡白た 門ま鷺草村明崎春泉 I 橋 弦原海雲大会泉大老泉 泉華和春漢街水雲春音原雲崎雲祥原 澄童千水 新新浅會 井川木 藤翠之勇 雪賀江介	澄童千水 新新島佐鷺齋齋高北河加葛小岡大大梅宇植今石飯 中口谷友木田浦田多江府山尾坂岸林澤 本村橋草木浦谷行 々々山藤田武村合藤 田部沢木津田村川泉 志か 清律友津翠綾玉華和幸信勝は崩梅み清黄洋え春眞代千龍利幸翠瑞美雅美翠杏舞玄欣和雅惠愛藤淳歩代春紅雪晴洋 玉子香子芳香江秀枝泉子美る香艸子香翠子子華薰子宝子子光華子恵芳梢香邑夢城子敬芳美実瓊子佳子華雨泉洞子	
弘正八松静光竹昌高大樹翠 大墨蘭文附若生彩伏千大白梓蘭琇大正こ旭澄青大白蕙四椿正高た正久誠花華八塙岩誠大塙椿 舟華生村紅彩美苑崎阪原印』阪花鼎筆中葉大 華葉阪扇江鼎韻阪華こ老春蓮阪鷺書枝翠華井真か華實和舞祥街 沼和阪和翠			
渋柴篠佐櫻坂酒後近小小熊國工北岸岸菊上神川川加金加加加小小乙岡大大大権梅梅鶴岩入伊板石石石生安安 由田田藤田卷井藤野藤林林口板谷峰藤又田 地林田元崎納岡藤瀬野野幡村友島木田山木澤渕谷藤垣渡田崎騎藤 由惠世 美洋美志静龍智麗知喜遊閑秀萩智さ紫琴山春東民泰萩典茱優順萩春翠晴夏朱萩智紀四昌教和久董李祥悠悦青翠悦正甘萩裕代 子江子貞舟苑子萩山窓一江子ら蘭翠房映子子峰溪子仙子子美菜陽美峰星光美子峰子譽子子山名苑花子鳳徑子子雨花子子			
如芳椿正明昌東幸黎玉椿玉あ八調菊こ椿桜白千生光大千大は大玉高遊洞一 天倉大秀もた一立翠や華玉書澄王白墨土書 選月蘭翠華漢苑伯属明川翠川か街布月だ翠草露葉大昭阪葉雲せ阪川陵雲書草 章吉阪水くか宮精柳ま仙川流春川露緑氣游 109 繪渡絵鷺吉吉山山谷安森本村武宮宮三松松牧福廣平日長橋野丹長中中中中富富戸樋鶴千近田竹高高関春鈴杉庄 名賈邊井沼田本本中知鳴本吉上藤崎川上本村重野井地山高谷本中羽并村村里里江田澤部泉田池玉井原橋根原木田司 氏名略 智信お将鶴翠真梅和美砂悦明佳蕙英洋裕合陽翠清久美彩右久都喜惠久寛一亮星よ萩惠藤雪雅白柳哲文貞徹幸代慶節祥咏 子溪子太子綾紀香子子子子香月睦明子子子景次子幸華真子子子仙子子彩子風宣裕香芳子子子苑子子子風艸			

「第22回書道芸術院 九州支局展報告」

九州支局 事務局長

児玉 韶光

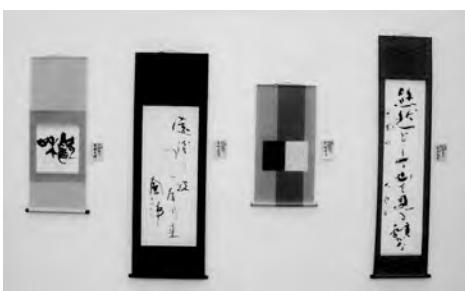
2018年 第33回国民文化祭・おおいた
2018年 第18回全国障害者芸術・文化祭お
いた大会（おおいた文化の祭典）の
事業として、2018年（平成30年）11月6
日（火）～11日（日）大分県立美術館（O
PAM）で開催されました。作品展示、
講演・実技講習、作品研究会をメイン
にしました。（公財）書道芸術院から常
務理事の後藤大峰先生に参加していた
だきました。



長野先生 講演・実技講習会



後藤先生作品研究



辻元理事長 常務理事の4名の先生方の作品



会場風景



長野先生作品研究

（1）作品の展示数は贊助作品、辻元
理事長、下谷常務理事、小竹常務理事、
後藤常務理事の4点、九州支局54名の
62点合計58名、66点でした。大作は牧
支局長、高田、児玉、木部の4点でし
た。漢字、かな、現代詩文書、刻字、
前衛書と全分野の作品が展示されまし
た。全壁面がひとめで見渡せる展示だっ
たので大好評でした。来場者は1007名で
した。

（2）講演会及び実技指導は11月11日
(日)10時～12時、講師は長野竹軒先生
(全日本書道連盟理事・東京学芸大学
名誉教授・全日本書写書道教育研究会
理事長・元文部科学省教科調査官(書
道担当)、演題は「学校の役割・書塾
の役割～水書指導への対応～」内容は、
水書の目的、水書用筆の持ち方、水書
用紙の構え方、学校教育の役割(学習

度から小学校1年2年に全面導入され
ます。はじめての内容なので興味・関
心が高く83名が受講しました。学校や
書道塾の関係者が多く、これから学校
や塾で活かされ広まると考えられます。
(3) 作品研究会は11月11日(日)13
時30分～15時、長野先生、後藤先生が
出品者で研究会に参加している会員の
作品に1人ひとり丁寧な御指導をいた
だきました。会員は真剣なまなざしで
受け止めていました。国民文化祭とし
て開催したので会員は前回以上に力を

入れて仕上げたと思います。講師の先
生から御賛賞の言葉をいただき、会員
一同ほっとすると同時に出品して良かっ
たという気持ちで一杯でした。第23回
(書美の涵養→学校の役割をよく理解
した上で)。これから社会教育の在
り方は①学校教育の補完(これまで通
り)②生涯教育の中での書道という視
点に立って児童・生徒の学びを支援す
る姿勢が大切。水書指導は2020年
度から小学校1年2年に全面導入され
ます。はじめの内容なので興味・関
心が高く83名が受講しました。学校や
書道塾の関係者が多く、これから学校
や塾で活かされ広まると考えられます。
終了後、牧泰濤支局長退任の挨拶、
生、後藤先生ありがとうございました。
平成15年度～平成30年度支局長として
九州支局発展にご尽力いただきました。
ありがとうございました。高田幽玄新
支局長の就任挨拶、全員一丸となつて
頑張りましょうと力強い決意が述べら
れ新体制がスタートしました。平成31
年度の第23回支局展からは福岡県で開
催されます。最後になりましたが、開
催にあたり大分県、(公財)書道芸術
院等関係各位に御協力、御指導をいた
だきました。感謝申し上げます。

上野アーティストプロジェクト2018

「見る、知る、感じる—現代の書—」

会期：2018年11月18日(日)～2019年1月6日(日)

会場：東京都美術館 ギャラリーA・C

主催：東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）



「鎮魂と復活 オーロラ(昇魂)」

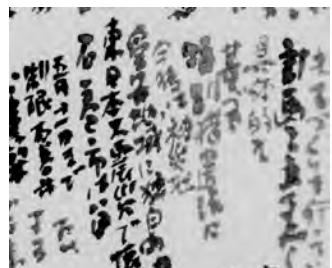
90×約500cm×5

東京都美術館主催の上野アーティストプロジェクト2018

作品部分拡大

「見る、知る、感じる—現代の書—」が開催され、書の公募団体で活躍する6名の現代作家の作品が展示された。本院からは千葉蒼玄理事が選出され、超大作2点を発表した。

今回の企画展示では、作品制作風景の動画とインタビュー映像が会場で上映され、大勢の参観者が賑わいを見せた。



「鎮魂と復活 3.11」

360×1260cm

日本書道ユネスコ登録推進基金『記念品付き寄付』のお願い

日本書道ユネスコ登録推進協議会

日本書道ユネスコ登録推進協議会（以下、協議会）は、「日本の書道文化」の保護継承と、ユネスコ無形文化遺産登録を目的として発足した団体です。協議会は、皆様からのご寄付によって運営をさせていただいており、2016（平成28）年4月から「日本書道ユネスコ登録推進基金」を開設しております。

今回は、ご寄付に対しロゴマークデザインのピンバッジをお送りする『記念品付き寄付』のお願いとお申込み方法をご案内させていただきました。1口=500円のご寄付につき、ピンバッジ1個をお送りいたします。

皆様のご支援ご協力が、目的成就へつながってまいります。書道文化を次世代へと力強くつなげていくために、皆様の基金ご協力を何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

書道芸術院では、ユネスコ無形文化遺産への登録を推進しております。今回の日本書道ユネスコ登録推進基金『記念品付き寄付』にご協力をお願い申し上げます。

日本書道ユネスコ登録推進基金『記念品付き寄付』のお申し込み方法

(1)「記念品付き寄付」は、1口=500円のご寄付につき、ピンバッジ1個をお送りするものです。

会派、社中、教室、会社、学校など、皆様のお申し込みをおまとめいただき、500円単位、5,000円以上でお申し込みください。

(2)10口以上の寄付につきましては、次のゆうちょ銀行口座にお振込みください。なお、振込手数料（払込料金）は送金者のご負担にてお願ひいたします。

9口以下につきましては、書道芸術院の事務所でお取り扱いいたします。この場合、ピンバッジ1個500円の他に送料がかかります。1～4口までは送料=100円、5～9口までは送料=200円となります。

①10口以上の寄付の場合

■郵便局からの振替口座

【口座記号番号】00110-6-450576

【口座名称】日本書道ユネスコ登録推進協議会

ニホンショドウユネスコトワロクスイショウキョウギカイ

■他の銀行からの振込口座

ゆうちょ銀行

【店名】〇一九（読み：ゼロイチキュウ）

【店番】019

【預金種目】当座

【口座番号】0450576

【口座名称】日本書道ユネスコ登録推進協議会

ニホンショドウユネスコトワロクスイショウキョウギカイ

②9口以下の寄付の場合

◎寄付金額の他に、ピンバッジの送料を含んだ金額を払込みください。

（送料：1～4口=100円、5～9口=200円）

■ゆうちょ銀行

【口座記号番号】00180-4-296957（青色の払取扱票）

【口座名称】（公財）書道芸術院

※通信欄は「ユネスコ寄付金」とし、口数と送料を記入してください。

(3)ご入金の確認が済みましたら、①については協議会より記念品送付先のご住所にピンバッジをお送りいたします（送料は協議会負担）。②については書道芸術院事務局よりお送りいたします。いずれの場合も発送は順次行いますが、お届けまで少々お時間をいただく場合がございますので、予めご了承ください。

注記：協議会は任意団体のため、寄付金に対する寄付控除は行っておりません。予めご了承ください。

